

# 直売所を核とした地域農業の活性化

県北農林事務所経営・普及部門

常陸太田市は、高品質と、観光果樹の産地として知名度が高い地域です。一方、基幹的農業従事者は70歳以上が64%を占め、農業者の高齢化が進んでおり地域農業の活性化が重要な課題となっています。そこで、平成28年にオープンした「道の駅ひたちおおた」を核として、良品出荷による価格安定や交流人口の拡大に取り組みました。

## 「道の駅ひたちおおた」を核とした直売活動支援

常陸太田市内では、農林水産物の生産振興、販路拡大、農家所得の向上、担い手育成・確保、地域資源を生かした交流人口の拡大を目的とし「地域産業の振興と地域経済の好循環を生み出す拠点づくり」として「道の駅ひたちおおた」が28年7月に設置され農産物出荷者協議会が組織されました。普及では市・J A等関係機関と連携し、出荷者の育成を図って来ました。この結果、地場産率は73.7%（H29）から75.3%（H30）まで向上しました。



写真1 平成28年7月オープン「道の駅ひたちおおた」



写真2 出荷者協議会・関係機関による品質チェック

## よい商品を適正価格で

道の駅ひたちおおたでは商品性の向上に向けた取組として、品質チェック体制の整備を図りました。毎月第一金曜日に、出荷者協議会役員、常陸太田市役所、直売所店長、普及部門が調査を行い「袋の大きさは商品に合わせたものとする」「葉物類の水分はきちんと拭き取る」「ラベルは真直ぐに貼る」「量目・価格を適正にする」等の指摘を行いました。この結果、よい商品を、適正価格で販売できる体制が構築され、品質基準が維持されています。この結果が消費者に支持され、開設2期目の売上げは前期の8%増加となりました。

## 体験交流活動施設の充実

道の駅ひたちおおたでは体験交流活動と新規就農希望者が技術習得できる施設としてハウス（2棟648㎡）を設置し、大玉・中玉・ミニトマトを栽培しています。このハウス管理者に技術指導を行った結果、通年収穫により平成30年度は延983名の体験者を受け入れるとともに、総収穫量は3tを上回りました。また、ハウス管理者を常陸太田市内の農業法人へ就農する支援を行いました（1名）。



写真3 体験交流活動施設（トマトハウス）